2024 年 9 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【 9 月の気象 】

9 月の季語として、「仲秋」「月見」などがあります。そのほか、「秋冷」という季語もあり、涼しくなってきますが、最高気温が 30℃を超える真夏日も多く、まだまだ暑い日が続きます。農作物の管理や熱中症に注意が必要です。

熱中症の危険性が極めて高い気象状況の予想を熱中症警戒アラートとして提供しています。熱中症に対する健康管理にご利用ください。

熱中症警戒アラートの HP はこちら → https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php

「台風」も 9 月の季語となっています。9 月は台風の発生数、日本への接近数、上陸数が多くなる月です。平年値では年間の発生数は 25.1 で、9 月は 8 月に次いで発生数が多くなっています。接近数、上陸数は 9 月が一番多くなっています（第 1 表）。気象庁では台風が発生すれば、気象庁 HP 等で台風の進路予想を随時発表しています。また、松山地方気象台では、愛媛県に台風が影響すると予想される場合には台風に関する愛媛県気象情報を発表し、台風による愛媛県への影響（暴風、大雨、高潮等）についてお知らせします。これらの情報を活用し早めの対策、早めの避難をお願いします。

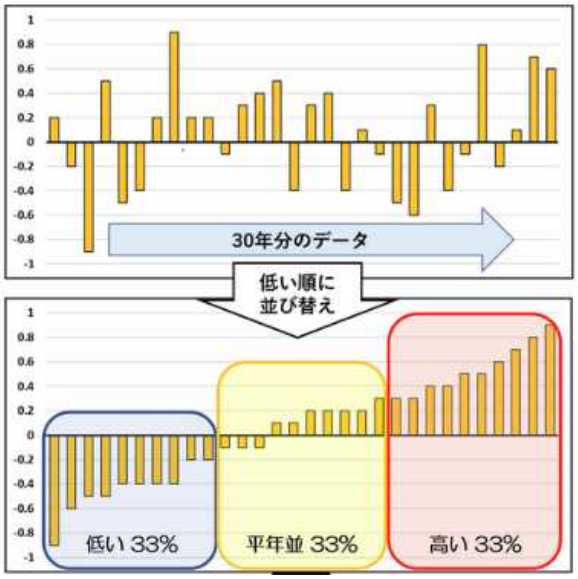
第 1 表　台風の発生数、接近数、上陸数の平年値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
接近数				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0

【 気象用語 】「平年値の階級」とは

気象庁では、気温、降水量、台風の発生数等、色々な要素で平年値を使用しています。平年値は基本的に 30 年間のデータの平均値を使用しています。現在使用している平年値は 1991 年～2020 年の 30 年間のデータを使用しています。平年値は 10 年毎に更新しており、次の更新は 2031 年となります。

1 か月予報、3 か月予報等の季節予報で使用する「平年並」「多い（高い）」「少ない（低い）」という階級があります。この階級は、気温で見ると 30 年間のデータを低い順に並び替え、低いほうから上位 10 個のデータの範囲が「低い」となり、真ん中の 10 個の範囲が「平年並」高いほうからの上位 10 個の範囲が「高い」となります（第 1 図）。その中でも、上位（下位）10%に入る値を「かなり高い（低い）」階級としています。このように「平年並み」の幅を決めているため、降水量のように年により多い、少ないというばらつきが大きいと「平年並み」の幅も大きく違うことがあります。四国地方の月ごとの降水量で見れば、6 月は平年の 85%の降水量では「少ない」となりますが、他の月では「平年並」となります。8 月は平年の 55%の降水量があれば「平年並」となりますが、他の月では「少ない」となります（第 2 表）。



第 1 図　3つの階級の決め方

第 2 表　四国地方の降水量の平年並の幅（平年値に対する比率%）

期間	平年並の幅（%）	
	下限値	上限値
1月	66	124
2月	71	121
3月	84	104
4月	80	113
5月	75	112
6月	87	110
7月	71	114
8月	55	110
9月	72	116
10月	65	108
11月	78	115
12月	75	120
年	93	107